

【補正係数の計算例】

●どんな時に補正係数を使う？

標準歩掛を構成する数量とは異なる場合（ほとんどの場合）に使用します。

一部の標準歩掛における補正係数の計算例を以下に示します。

なお、計算例の内容については今後アップデートを予定しています。

計算例

- ・ **1-4-1-4 地中レーダ探査 解析費**
（1 km または 10 箇所当たり歩掛表）（p. IV-37）
- ・ **3-2-5 ボアホールスキャナー観測（7）測定費**
（100m／孔当たり歩掛表）（p. IV-108）
- ・ **3-3-3 パイプ式ひずみ計（2）観測**
（10 箇所（深度 30m 以内）当たり歩掛表）（p. IV-122）

地中レーダ探査（手押し型，ハンディ型）

□主に次の費用を補正します

- ・ 現地踏査資料検討費
- ・ 解析費
- ・ 観測費
- ・ 測線設定費
- ・ 報告書作成費

測線長 L(km)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10km	補正係数式
測定箇所数 N	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 箇所	
補正係数 K	1.00	1.82	2.57	3.28	3.95	4.60	5.23	5.83	6.42	7.00	K=(1-0.3logL)Lまたは K=(1.3-0.3LogN)N/10

○既に補正係数表に示された補正係数を用いた計算方法

・ 測線長が 2km の探査を行う場合

補正係数表に従い、補正係数 1.82 を各歩掛表の数量にかける。

・ 測定箇所が 50 箇所の探査を行う場合

補正係数表に従い、補正係数 3.95 を各歩掛表の数量にかける。

・ 測線長が 3km、測定箇所が 50 箇所の探査を行う場合

測線長 3km と測定箇所 50 箇所の探査の労力を比較し、より労力がかかる方の補正係数を使用する。
例えば測定箇所同士の距離が 1km 以上など離れている場合は、測定箇所で補正係数を出すことが望ましい。

測線長 L(km)	0.1 以下	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	補正係数式
測定箇所数 N	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
補正係数 K	0.60	0.64	0.69	0.73	0.78	0.82	0.87	0.91	0.96	1.00	K=0.55+0.45L または K=0.55+0.045N

測線長 1km 未満、または測定箇所 10 箇所未満の場合も同様の考えで行う。

○補正係数式を用いた計算方法（測線長が 10km 以上、または測定箇所数が 100 箇所以上の場合）

・ 測線長 15km の探査を行う場合

補正係数 (K)、測線長 (L)

$$K = (1 - 0.3 \times \log \times L) \times L$$

$$K = (1 - 0.3 \times \log \times 15) \times 15$$

$$K = 9.7$$

・ 測定箇所数 150 箇所の探査を行う場合

補正係数 (K)、測定箇所数 (N)

$$K = (1.3 - 0.3 \times \log \times N) N \div 10$$

$$K = (1.3 - 0.3 \times \log \times 150) 150 \div 10$$

$$K = 9.7$$

・ 測線長 0.1km 以下の場合、補正係数はすべて 0.6 となる。

ボアホールスキャナー観測（ボアホールスキャナー観測単独調査業務）

□主に次の費用を補正します

- ・ 解析費
- ・ 測定費
- ・ 資料整理・計算費

観察区間長 (m) D	100	150	200	250	300	400	500	補正係数式
補正係数 K	1.00	1.39	1.76	2.10	2.43	3.04	3.60	$K=(1.8-0.41\log D) \times D/100$

・ **観察区間長が 200m の観測を行う場合**

補正係数表に従い、補正係数 1.76 を各歩掛表の数量にかける。

・ **観測孔が複数ある場合**

- ①100m ②200m ③250m

上記 3 孔のそれぞれの補正係数を各歩掛表の数量にかけ、個別に積算したものを最後に合算する。

・ **単一孔 150m を複数回に分けて観測する場合**

補正係数表に従い、補正係数 1.39 を観測 1 回につき、測定費の数量へ個別でかける。
 そのほかの歩掛表へは補正係数 1.39 をトータル 1 回としてカウントして数量へかける。
 例えば、単一孔 150m を 3 回観測したとすると、解析費・資料整理・計算費へは補正係数 1.39 をかけ、測定費は補正係数 1.39 をかけたもの×3 を合算する。

1 回目	解析費・資料整理・計算費	1.39
2 回目	解析費・資料整理・計算費	
3 回目	解析費・資料整理・計算費	

1 回目	測定費	1.39
2 回目	測定費	1.39
3 回目	測定費	1.39

回数ごとにかけて積算したものを合算する

観察区間長 (m) D	20 以下	30	40	50	60	70	80	90	100	補正係数式
補正係数 K	0.50	0.56	0.63	0.69	0.75	0.82	0.88	0.94	1.00	$K=0.0063D+0.375$

・ **観察区間長が 50m の観測を行う場合**

補正係数表に従い、補正係数 0.69 を各歩掛表の数量にかける。

・ **観測孔が複数ある場合、単一孔を複数回に分けて観測する場合**

100m 以上の補正係数と同じ考え方で積算する。

・ **観察区間長が 5m 以下の場合、補正係数はすべて 0.41 となる。**

パイプ式ひずみ計（観測）

観測箇所数	1～4	5～7	8～10	(例：15箇所の場合)
補正係数	0.5	0.75	1.0	1.75

・ 4 箇所（35m, 10m, 20m, 20m）の場合

【補正係数】

4 箇所の為、補正係数表に従い、0.5 を数量にかける。

【深度補正係数】

各ボーリング長を足し合わせ、箇所数で割る。

$$\rightarrow 35 + 10 + 20 + 20 \div 4 = 21.5$$

深度補正係数 30 以下にあてはまる為、深度補正係数は 1 となる。

・ 6 箇所（40m, 50m, 50m, 50m, 10m, 25m）の場合

【補正係数】

6 箇所の為、補正係数表に従い、0.75 を数量にかける。

【深度補正係数】

$$\rightarrow 40 + 50 + 50 + 50 + 10 + 25 \div 6 = 37.5$$

深度補正係数 30 超～40 以下にあてはまる為、深度補正係数は 1.15 となる。

・ 9 箇所（60m, 60m, 40m, 40m, 70m, 50m, 50m, 30m, 30m）

【補正係数】

9 箇所の為、補正係数表に従い、1.0 を数量にかける。

【深度補正係数】

$$\rightarrow 60 + 60 + 40 + 40 + 70 + 50 + 50 + 30 + 25 \div 9 = 47.2$$

深度補正係数 40 超～50 以下にあてはまる為、深度補正係数は 1.30 となる。